

平成26年度 燕市・西蒲原郡国語部 活動報告

部長 齋須 喬

1 研究主題 「思いや考えを伝え合う授業の工夫」

2 研究の概要

(1) 講演会 期日：6月4日(水) 会場：吉田産業会館

演題 「思いや考えを伝え合う授業の工夫」

～言語活動の充実を図り、国語学力を高める授業づくりのポイント～

講師 燕市教育委員会 統括指導主事 佐藤 浩一 様

〈主な内容〉

- 国語科の単元を構想する6つのポイントは、①子どもの実態と単元を通じた子どもの成長を考える ②教材研究をする ③子どもに付けたい力を明確にする ④言語活動の充実の視点から考える ⑤子どもに学習意欲への意欲を高める ⑥単元の核となるもの考える である。
- 下支えをする言語活動を充実し、すべての子どもに、いつでもできるように。①反応を磨く言語活動 ②振り返りを書く、キーワード作文(日常的に書くことにより書く力がついてくる)
- 明日からできる授業改善として「課題」「まとめ」「振り返り」を明確にして授業に臨む。「追求課題」→「まとめ」の活動の間に①子どもとどのように関わらせたり、どんな教材を出したりするかを吟味する。

(2) 授業研究会 期日：12月3日(水)

2年「おもちゃの作り方」

～説明書を書いて友達におもちゃの作り方を説明しよう～

授業者 吉田北小学校 石澤磨美子 教諭

指導者 松長小学校 齋須 喬 校長



〈授業の概要〉

事物の作り方を手順に沿って説明文を書く学習である。生活科の「作ってためして」の単元で実際におもちゃを作る活動をし、その手順を文章化させていった。そのため、児童にとっては、必要感のもてる学習課題となっていた。

おもちゃ作りの手順を順序を表す言葉を使って書き、自分の説明書が友だちに良く伝わるように相手意識をもって書かせていた。また、チェックカードを活用し、よりよい文章に書き直しができるようにしていた。

〈協議会と指導の概要〉

3つのグループに分かれ協議を行った。児童の実態に合わせた課題の工夫、説明する場面の設定の工夫の2点を中心に話し合った。書く内容をカードの形で書き、それをつなげて説明書を作り上げていたので子どもにとって書きやすかった。活動に合ったチェックカードの内容を吟味する、「分かりやすく」ということはどのようなことを指しているのか明確にしていく、子どもの意識を途切れさせない指示や発問の工夫が大切などのご指導をいただいた。

3 成果と課題

- ・講演会では、国語の単元構成の要点についてご示唆をいただいた。また、授業研究では、生活科で学習したおもちゃ作りの手順を文章に起こす活動であり、楽しく活動できる内容で参観者にとって参考になる題材であった。
- ・次年度も、講演会(講習会)と授業研究の2本立ての内容を軸に計画立案していきたい。